

## 横浜市八聖殿郷土資料館 ご見学のしおり

- 1 八聖殿
- 2 八聖人像
- 3 横浜の海の変遷
- 4 横浜の名前の由来と吉田新田
- 5 漁業が盛んだった横浜の海
- 6 現在も行われている横浜のお祭り
- 7 農具・民具、懐かしい雑誌など
- 8 横浜と製糸業



横浜市八聖殿郷土資料館 初夏

### 1 八聖殿

八聖殿は、昭和初期に通信大臣・内務大臣を歴任した安達謙蔵氏の別荘として昭和8年（1933年）に建てられました。法隆寺の夢殿を模して作られたとされ、2階には安達氏の個人コレクションである八人の聖人像が安置されています。昭和20年（1945年）5月29日の横浜大空襲などで本牧一帯も甚大な被害を受けますが、八聖殿は戦災を免れたため、現在も82年前の当時の姿のまま保存されています。昭和48年（1973年）に地域の歴史を後世に伝えるため、横浜市初の通史博物館としてオープンしました。



八聖殿絵はがき（昭和戦前期）



本牧は東京湾に突き出た岬でした。八聖殿は岬の先端の高台に位置し、当時は海が一望できる場所でした。

### 2 八聖人像

八聖人像は、八聖殿オープンにあわせて、2Fへ安置するために製作されました。長崎・平和公園にある平和祈念像を製作した北村西望氏、早稲田大学にある国重要文化財・大隈重信像を製作した朝倉文夫氏をはじめとする、当時活躍していた著名な作家ばかりです。



### 3 横浜の海の変遷

日本が高度経済成長を続けていた昭和38年から横浜の海は埋め立てられ、漁業から工業へとその役割を変えていきました。展示室の上の写真（昭和24年）と下の写真（平成9年）はそれぞれ同じ場所を撮影したものです。比較しながら、その海の変遷をご覧ください。



本牧 昭和24年（1949年）



金沢 昭和24年（1949年）



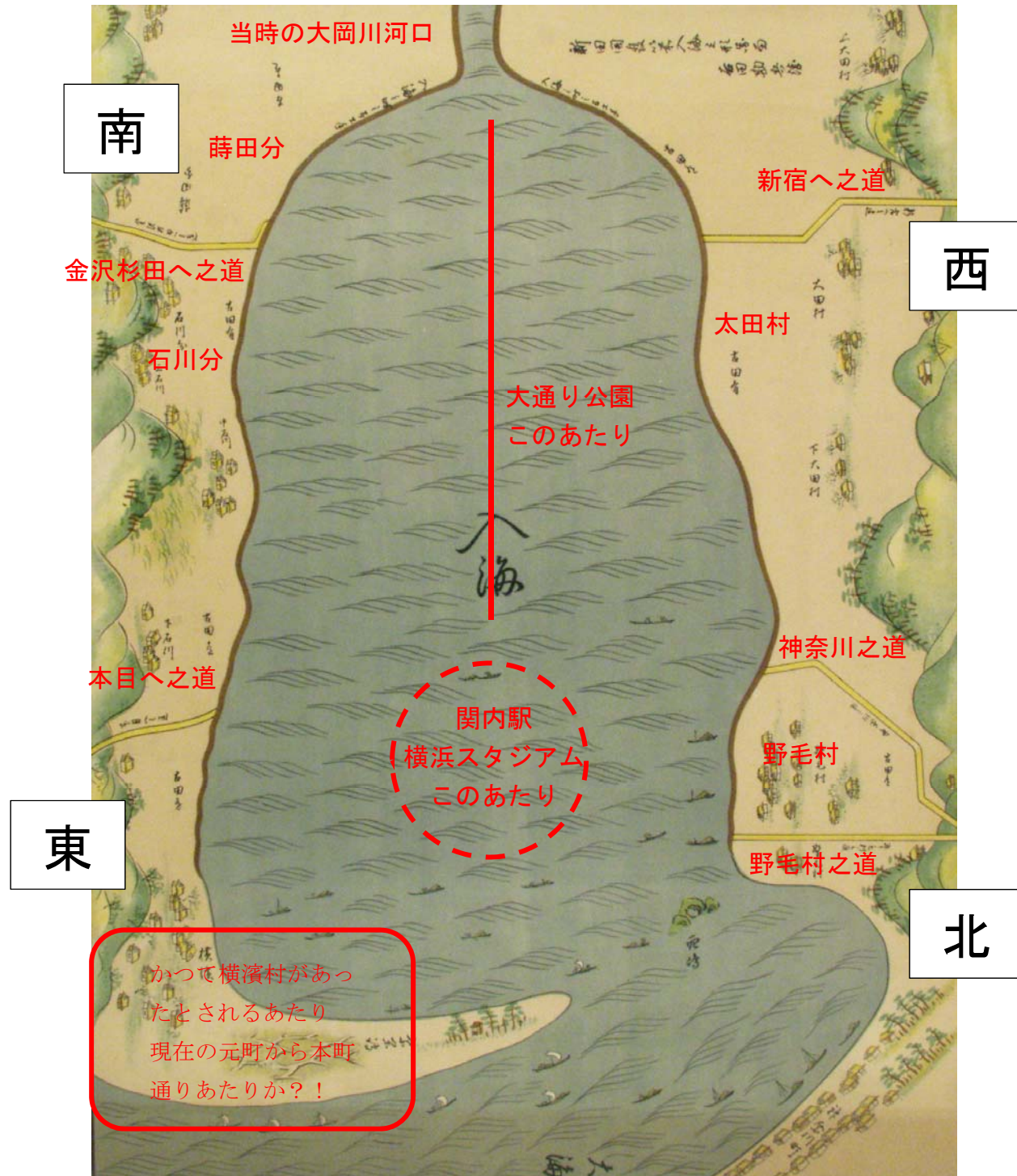
本牧 平成9年（1997年）



金沢 平成9年（1997年）  
八景島は海の中に出来た人工島だということがよくわかります。

#### 4 横浜の名前の由来と吉田新田

現在の蒔田公園から大岡川・中村川に囲まれた地域には、かつて外海と砂州で仕切られた形で入海が広がっていました。砂州が横に長い砂浜であったことから「横濱」という地名が生まれたとも言われ、室町時代にはその辺りに「横濱村」という地名が確認されています。江戸時代前期、その入海に吉田勘兵衛が干拓により新田開発を行います。幕末に横浜が開港場になると、かつて入海であった新田へと次々に街が造られ、急速に都市化が進んでいきます。それに伴い「横濱」と呼ばれる地域も拡大していきました。



#### 5 漁業が盛んだった横浜の海

1 Fには昭和30年代まで横浜の海で使用していた漁具を展示しています。五郎丸はかつて本牧で活躍していた漁船です。また本牧は海苔の養殖も盛んに行われていました。冬になると本牧の海には海苔を養殖するための網（網ひび）が張られ、砂浜には海苔を干す台がずらりと並びました。



上：かつて本牧の海で活躍していた漁船・五郎丸の幟と大漁旗

左：昭和24年頃の本牧の海  
本牧の広い範囲が昭和57年まで米軍に接收されていました。その接收地と同じくらい広い遠浅の海に海苔の養殖のひびが並んでいるのがわかります。

#### 6 現在も行われている横浜のお祭り

階段から2 F展示室では、現在も横浜各地で行われているお祭り（伝統行事）を紹介しています。2 F最初のケースで紹介している神奈川県指定無形民俗文化財「お馬流し」は、ここ本牧で450年受け継がれている祭事です。毎年8月最初の土日に行われています。

#### 7 懐かしい農具や生活用具、雑誌など

2 Fでは昭和30～40年代まで普通に使われていた農具や生活用具、雑誌、おもちゃなどを中心に展示しています。実際に手にとってご覧いただける資料もございます。

#### 8 横浜と製糸業

古民家では、かつて五大生糸売込商と呼ばれた大商人のうち、本牧で暮らした原富太郎（三溪）・小野光景を紹介しています。また幕末からの日本の生糸貿易の歴史や蚕の生態などもパネルでわかりやすく紹介しています。

この古民家は幕末から明治にかけて建てられた名主であった家の一部を移築したものです。かつてこの民家の屋根裏でも養蚕が行われていました。